

用語集 ・ 参考(検討プロセスのまとめ)

■用語集

あ	I o T	モノのインターネット（Internet of Things）の略称。インターネットにさまざまな装置（モノ）をつなぎ、連携させることで、多様な価値を産出する仕組み。
	A I	AI とは人工知能（Artificial Intelligence（アーティフィシャルインテリジェンス））の略称。コンピューターの性能が大きく向上したことにより、機械であるコンピューターが「学ぶ」ことができるようになった機械学習を中心とする技術。
え	N P O	「Non-Profit Organization」又は「Not-for-Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称。
か	キャッシュレス化	紙幣や硬貨を使用せず、クレジットカードや電子マネーによる電子決済を使用すること。
き	共助	介護保険に代表される社会保険制度及びサービスなど、リスクを共有する仲間（被保険者）の負担による相互扶助。
	行政オープンデータ	行政機関などが保有する公共データを機械判読に適したデータ形式で、かつ誰もが二次利用を可能とするルールによって公開されたデータ。
こ	公営住宅等長寿命化計画	公営住宅などストックの適切なマネジメントを行うべく、適切な点検、修繕、データ管理などを行い、効率的・効果的な団地別・住棟別の事業方法を選定するとともに、長寿命化のための事業実施予定一覧を作成することにより長寿命化に資する予防保全的な管理や改善を計画的に推進しライフサイクルコスト（L C C）の縮減などをめざすもの。
	高齢化率	65 歳以上人口が総人口に占める割合。
	公助	一般財源による高齢者福祉事業など税による公の制度。
さ	再生可能エネルギー	エネルギー源として持続的に利用することができる、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存する熱・バイオマスのこと。
	財政力指数	地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去 3 年間の平均値。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえる。

し	消滅危機言語	「いま何もしなければ」近い将来なくなってしまう可能性があるとしてユネスコが2009年に報告した言語。
	C I Q	customs (税関)、immigration (出入国審査)、quarantine (検疫)の頭文字をとったもので、出入国手続の総称。
	重要無形民俗文化財	無形の民俗文化財であって、特に重要なものとして文部科学大臣に指定され、官報に告示されたもの。
	ジオサイト	重要な地質や地形的な景観を保全している地域。
	ジオツーリズム	地質及び地形や景観、風土、歴史、生活文化など地質に密接に関連する領域を切り口として整備されたジオパークを中心に、「自然と人間(暮らし)との関わり」をテーマに訪れた人々が知的感動、楽しみなどを味わい、しかも将来に向けての環境保全の大切さを胸に刻むことのできるツアー。
	循環型社会	「天然資源の消費の抑制を図り、もって環境負荷の低減を図る」社会。
	持続可能な開発目標(SDGs)	SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられた。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている。
	自助	自らの健康管理(セルフケア)、市場サービスの購入など自分のことを自分ですること。
す	スマート農業技術	ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業。
た	脱炭素社会	温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする社会。 「排出を全体としてゼロ」とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味する。
て	DX	デジタル・トランスフォーメーションの略。デジタル技術で生活やビジネスの仕組みを大きく変え、新しい仕組みを構築して競争力を高めること。
と	どうなん・ファンド	町民の活力の種を育てるまちづくり活動及びまちの活力・雇用創出の種を育てるまちづくり事業の展開を支援するファンド。

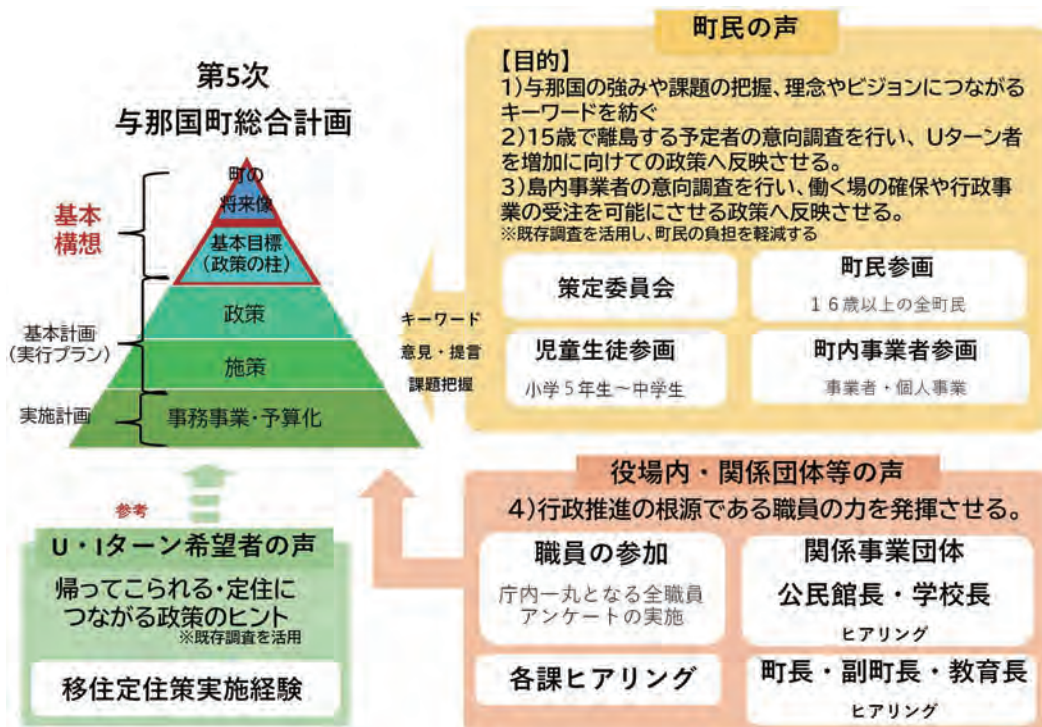
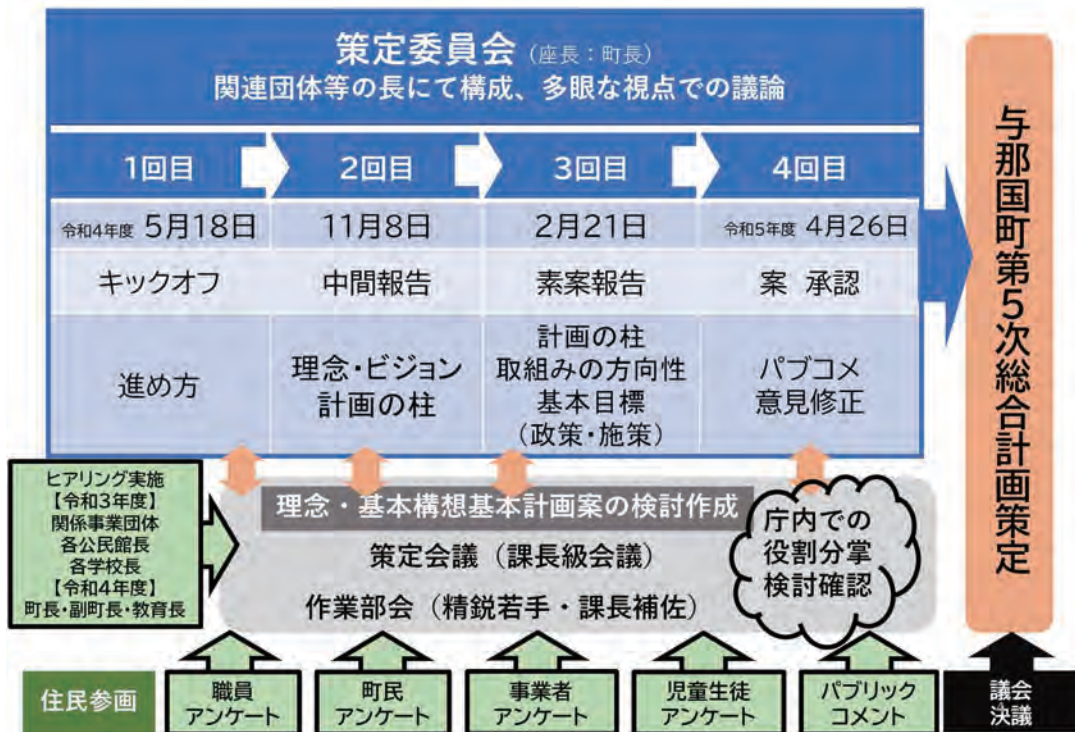
は	排他的経済水域（EEZ）	領海の外側にあつて、沿岸国がその水域のすべての資源の探査、開発、保存、管理および同水域のその他の経済的活動について排他的な管轄権をもつ水域。
ひ	ビッグデータ	情報通信技術の進展により生成・収集・蓄積などが可能・容易になる多種多量のデータ。
	PFI	Private Finance Initiative の略称。公共施設などの建設、維持管理、運営などを民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。
ふ	5G	第5世代移動通信システムのこと。従来より、高速・大容量の通信が可能になる。
ほ	ポピュレーションアプローチ	健康障害を起こす危険因子を持つ集団全体に対し、危険因子を下げるアプローチ方法。
ま	埋蔵文化財	土地に埋蔵されている文化財（主に遺跡といわれている場所）のこと。
や	U・Iターン	出身地に戻ること（Uターン）、地縁のない地方で暮らすこと（Iターン）の総称。
ゆ	UNESCO（国連教育科学文化機関）	ユネスコ（国際連合教育科学文化機関、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization U.N.E.S.C.O.）は、諸国民の教育、科学、文化の協働と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関。
	遊休農地	次のいずれかに該当するもの。（ア）現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地。（イ）その農業上の利用の程度がその周辺の地域における農地の利用の程度に比し、著しく劣っていると認められる農地。
よ	予防保全的管理	施設の機能に支障が生じる前に維持や修繕、更新を行うこと。

参考（策定プロセスのまとめ）

■第5次与那国町総合計画の検討プロセス

第5次与那国町総合計画は庁内一丸となり、職員自らの力で立案すること、町民と協働して計画することを目指し、官民で構成された策定委員会の設置や公民館や関係団体へのヒアリング・町民アンケートを行いました。

特に、青年会との意見交換・庁内の若手職員による作業部会・児童生徒と若手職員による意見交換など、未来を担う方々との協働を積極的に行うプロセスを重視しました。



■プロセス一覧表

	日時	プロセス	庁内	職員	関係団体	住民
令和 2年度	2月15・16日、24日 3月1～5日	第4次総合計画検証作業 各課ヒアリング	●	●		
	3月29日	第4次総合計画振り返り報告会	●	●		
令和 3年度	4月19日	与那国町商工会			●	
	4月20日	沖縄県農業組合与那国支店			●	
	4月21日	与那国町観光協会			●	
	4月22日	与那国町漁業協同組合			●	
	4月24日	与那国町伝統織物協同組合			●	
	4月26日	町議会議員				●
	5月19日 ～6月4日	学校長ヒアリング 与那国中学校・与那国小学校・久部良中学校・久部良小学校・比川小学校	●			
	5月22日	青年会ワークショップ (第1回どうぐる会)			●	●
	5月24日 ～26日	公民館長ヒアリング				●
	5月26日	社会福祉法人 与那国町社会福祉協議会			●	
	7月7日	令和3年 第一回 作業部会		●		
	7月16日	令和3年 第二回 作業部会		●		
	7月17日	青年会ワークショップ (第2回どうぐる会)			●	●
	7月27日	令和3年 第三回 作業部会		●		
	7月28日	令和3年 第四回 作業部会		●		
	2月14日	町長ヒアリング	●			
3月1日 ～18日	全職員アンケート		●			
3月28日 ～4月8日	総務課・企画財政課・長寿福祉課・産業振興課・まちづくり課・空港課・出納室・教育委員会教育課・教育委員会総務課ヒアリング	●				

令和 4年度	5月11日	令和4年 第一回 作業部会		●		
	5月12日	副町長 ヒアリング		●		
	5月18日	第一回 策定委員会	●	●	●	●
	6月1日 ~7月11日	全町民アンケート				●
	6月21日	令和4年 第二回作業部会		●		
	10月3日 ~14日	事業者アンケート				●
	10月25日	比川小学校・久部良小学校 ワークショップ				●
	11月8日	第二回 策定委員会	●	●	●	●
	12月12日	与那国小学校ワークショップ				●
	12月12日	久部良中学校ワークショップ				●
	12月20日	与那国中学校ワークショップ				●
	2月21日	第三回 策定委員会	●	●	●	●
	3月31日 ~4月14日	パブリックコメント				●
令和 5年度	4月26日	第四回 策定委員会	●	●	●	●

■第4次総合計画振り返り会 令和3年3月29日

検証作業を踏まえ、町長・教育長ならびに全課課長級、学識者による振り返り報告会を実施しました。



■庁内若手職員による作業部会 令和3年7月7日・16日・27日/令和4年5月11日・6月21日

第5次総合計画策定に係る作業部会を設置し、各課連携しながら進められるよう、対話型研修で意見交換をし、2ヵ年計6回の対話の場をもうけることで庁内一丸となって取り組む体制づくりを行いました。



■青年会ワークショップ(どうぐる会) 令和3年5月22日・7月17日

住民が主役のまちづくりを具現化するため、担い手である祖納青年会と協働で勉強会を実施しました。

〈文化〉
祭事の意味、与那国の郷土芸能
棒踊り、与那国花織、島唄・三線

〈人間〉
どうなうむぬい(助け合う心)、
会話・声かけ

〈海〉
ティンダバナから見えるナンタ浜、
季節ごとの海

〈食〉
祭事で出てくる供え物、島酒、カジキ

〈生物〉
南牧場の放牧された馬、ヨナグニサン

〈自然〉
昔の満田原一面の稲穂が風にびく
風景、夕日や星空、海底遺跡

与那国の好きな風土は？



ワークショップ形式で、参加者からジャンル問わずそれぞれが思う島の好きなどころを書き出してもらうと次の通り6つの分野に分けられ、なかでも郷土芸能や祭事、方言などと与那国島の文化に関するものが多くあげられていました。

どうぐる会便り

【発行】
R3年6月
祖納青年会



「生きた風土から生まれる風景」をタイトルに、前橋工科大学工学部准教授の杉浦 榮(すぎうら さかえ)さんをお招きして、住民が主体となって島の未来を考え、どのようにまちづくりをしていくかを考えるきっかけづくりを目的にして与那国どうぐる会が開催されました。(令和3年5月22日・主催祖納青年会・共催与那国町企画財政課・12名参加)

あとかぎ



コロナ禍の為、人数制限を設け、Zoomを利用した会となりましたが、改めて島の現状とこれからの未来を考えるきっかけになったと思います。与那国島らしさは目に見える景色や生き物、芸能だけでなく、何気ない生活の一部がこの島の特徴になっていたりします。そう考えると、この島の良さというのはまだまだ伝えられることがたくさんあると感じました。今回は島民の参加がわずかであったためまだ伝えられなかった人数ではありましたが有意義な時間になったと思います。与那国島をもっと良くしていくため、次回は令和3年7月17日(土)です。ご参加お待ちしております。

続いては前回の質問で挙がってきた与那国の好きな風土を将来に残していく為に、1人で出来る事から100人で出来る事を考え次の通り意見が出てきました。

〈1人で出来ること〉
簡単な単語から方言で言う。周りに島の自慢をする。島の行事に積極的に参加する。島のおじー、おばーにたくさん島のことを質問する。

〈10人で出来ること〉
ビーチクリーン、与那国産の物を身につける、キングイ鑑賞会、観光客にダイビングや釣りなどをサービスする。

〈100人で出来ること〉
島の食、行事、人全体を含めたドキュメンタリー映画を撮る。モットイナイアビール運動。

出来ることは？

1人・10人・100人で




126

とらふくろの会便り

vol.2【発行】
R3年8月
祖納青年会

「住民が主体、島づくりへのヒント」をテーマに、大城肇先生（前琉球大学学長）と永野敏樹氏（鹿児島県沖永良部島和泊町役場）の講話を頂き、その後参加者による意見交換ワークショップを実施しました。緊急事態宣言発令の為、オンライン会議ツールZoomを活用し、各所から参加できるオンラインフリット形式の今後可能性が広がる試みでした。（令和3年7月17日・主催祖納青年会・共催与那国町企画財政課・16名参加）

与那国の可能性SWOT分析と未来への視座

まずは大城先生からの与那国SWOT分析による現状把握の講話。
◆「強み」は、黒潮の源流・海底遺跡・与那国馬・一番遅い夕陽など。
◆今後の可能性が広がる「機会」は、観光客の増加・国境の島・自給自足のできる島・台湾との交流・人間の動きとモノの動きの活性化・海の幸や陸の幸、新たな野菜工場や陸上養殖など。
◆「弱み」は島の規模の小ささ・高い輸送費・台風の常襲地・若者流出の構造・経済循環率が低く、島の経済や産業が停滞していることなど。
◆「脅威」は台風などの自然や国境問題などの政治的な課題、人口構造・人口減少などが挙げられ、現状分析を踏まえた与那国の将来についての視点を頂きました。

鹿児島県沖永良部島和泊町の事例

役場職員でありながらも、一町民として町おこしに関わる永野さんより、町民が主役となるまちづくりについての講話。◆青年団のギネス記録の挑戦（二時間に植えたゆり球根数を記録更新を達成）は「島だから」と諦めるのではなく、「島だからこそできること」を子供たちに見せようとして企画され、海外事務局への問い合わせや資金調達までを青年団が知恵を絞って自由に行ったこと。◆「あひ・まち元気」活動では、各集落毎に住民主体でビジョンを策定◆それに続く和泊町第六次振興計画では、島外へ出た若者達の意見も取り入れて策定した経緯などが紹介されました。



与那国町（少人数特設会場と個別）・那覇市・沖永良部島・東京からの参加者全員による記念撮影

十年後の未来新聞づくり

ワークショップ

まず十年後の自分についてイメージを膨らませ、「できたこと」や「こんなことをしているか」などの意見の出し合い。続いて十年後の与那国に起きることについてイメージを膨らませながら「与那国〇〇新聞」という形式で三チームごとに発表を行いました。
◆二つ目の青年会のチームでは「与那国でも新聞」、与那国中学校と久部良中学校がネットを通じて合同の授業を取り組んでいた事例を知り、同様に国内外の学校と関わることができるのではないかと、新たな学校のスタイルができるのではないかと意見が挙げられました。また、子供たちが遊べる公園が町中にならぬので、みんなが使える公園があるとよいという意見も挙げられました。

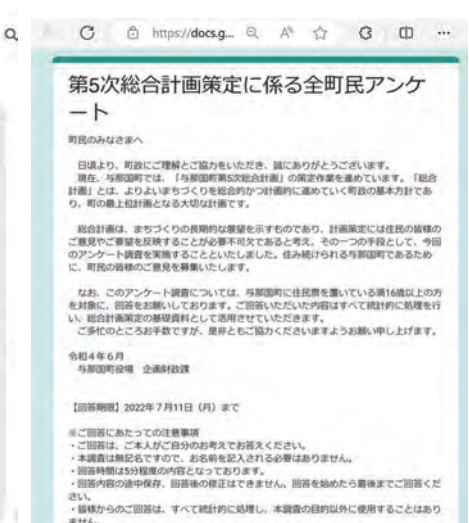
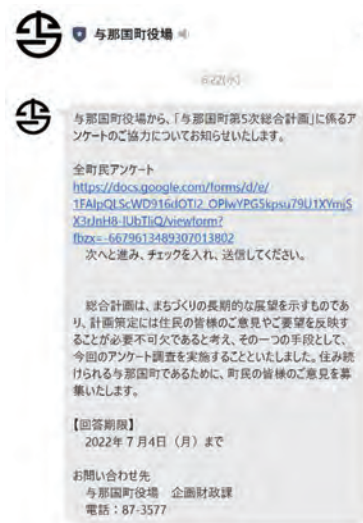
◆二つ目の青年会のチームでは、「与那国危機実感新聞」5年後、10年後と人口が減少するにあたり、一人ひとりが危機感を実感し、島のことを今以上に考えることになるという意見が挙げられました。
◆オンライン参加者のチームでは、観光客を受け入れる準備をしっかりすることや、与那国に住むことがブランドになることを実現させたい、地域単位での活性化に取り組んで、与那国の活性化につなげていきたいという意見が挙げられました。

あとがき

コロナ禍の稀人数制限を設け、Zoomを利用した会となりましたが、改めて島の現状とこれからの未来を考え直すきっかけになったと思います。与那国島らしい目に見える景色や生き物、芸能だけでなく、何気ない生活の一部が、この島の特徴になっていると、改めて感じることができた貴重な会だったと思います。

■全町民アンケート 令和4年6月1日～7月11日

町政に関する町民の意向等を把握し、計画づくりに反映させることを目的として、全町民アンケートを実施しました。告知にあたっては与那国町公式LINEや店舗掲載などを活用しました。



■事業者アンケート 令和4年10月3日～14日

町政に関する町内事業者の事業規模や雇用、事業継承などの意向等を把握し、計画づくりに反映させることを目的として実施しました。

店舗掲載などで告知するとともに、観光協会・商工会の協力を得て、会員へのメール告知も行いました。



■児童生徒アンケート 令和4年10月25日・12月12日・20日

与那国町の未来を担う子どもたちの現状把握や島の将来展望等を把握し、計画づくりに反映させることを目的に実施しました。児童生徒のキャリア教育も兼ねて、児童生徒と若手職員によるワークショップ形式による意見交換を行い、大切に思っていることや自分たちの町を守り創ることのできる役場の仕事について理解を深めました。

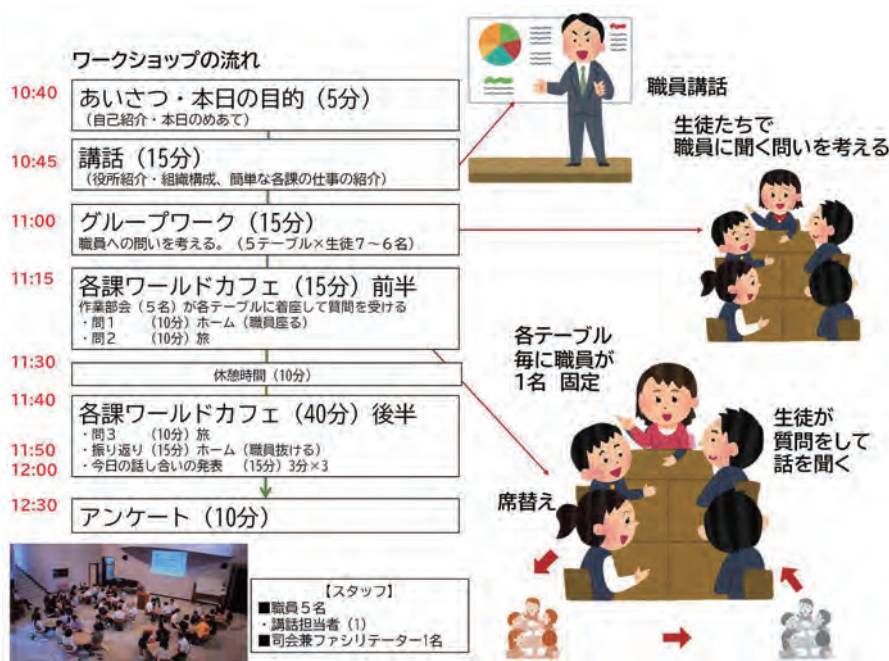
対象者: 町立小中学校に通う小学5年～中学3年の児童生徒(令和4年時点)

方法 : 事前学習役場職員による役場の仕事紹介後、問いと対話のワークショップ

: 事後学習: アンケートの実施 (オンラインにて回答)

学校名	実施期間	参加人数
比川小学校・久部良小学校	令和4年10月25日	17名
与那国小学校	令和4年12月12日	19名
久部良中学校	令和4年12月12日	15名
与那国中学校	令和4年12月20日	32名

■ワークショップの流れと様子





■ワークショップ資料

第5次与那国町総合計画とは？

与那国町が目指すまちづくりの計画をまとめたもの総合計画は、与那国町民が今も将来も幸せに暮らせ、島に住み続けられることができるように、令和5年度（2023）の10年間の与那国町のまちづくりの取り組みをまとめたものです。与那国町役場がまちづくりを進めていくためにとても大切な計画です。

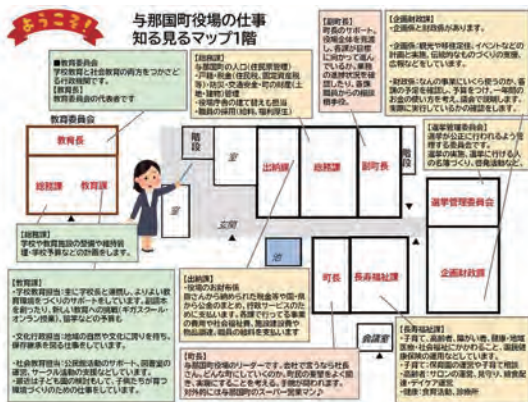
- 総合計画の3つの役割**
1. 与那国町の「将来像」をみんなで共有する
 2. 将来像を実現するための「目標」を立てる
 3. 「目標」を実行できるように計画を考える

皆さんが与那国に対して感じていることや思いを総合計画の柱にしたい。一緒に考えたい。

与那国町役場の仕事
紹介します！



与那国町役場の仕事 知る見るマップ1階



与那国町役場の仕事 知る見るマップ2階



与那国町役場探検♪



与那国町役場探検♪




振り返り 各グループ

1. 質問したこと

2. 理解したこと

① 知ったこと
② 興味を持ったこと
③ 役場の仕事への印象やイメージ

を模造紙にまとめてください。
発表者も決めてね



振り返りアンケート

本日の感想
漢字一文字
その理由

- ① 本日の講話・グループディスカッションの感想
一文字で表現すると
その字を選んだ理由は？
- ② 与那国島の以外のお友達に、与那国をどう紹介しますか？
- ③ 将来、与那国島で暮らしたいですか？ハイ・イエその理由は？
- ④ あなたが町長だったら何がしたいですか？
- ⑤ 与那国町の大人で、あなたが「カッコいい」とあこがれる人は誰ですか？その理由は？

アンケート

■パブリックコメント 令和5年3月31日～4月14日

町政に関する町民の意向等を把握し、計画づくりに反映させ作成した素案のパブリックコメントを行いました。寄せられた意見については、各課で検討の上、回答し総合計画に反映させ、第4回策定委員会で承認を得ました。

期間:令和5年3月31日～4月14日

告知方法:与那国町役場ウェブサイト掲載・島内店舗広告掲載・策定委員配布

意見回収方法:オンライン回答・企画財政課窓口

実施報告(寄せられたコメントと回答)

箇所	数
第1編 序論	7
全体について	1
第4章 『教育』	1

～100年先に住み継がれる島であるために～
「まるんな」になって与那国町の未来を
みんなで創る

募集中!



第5次総合計画 素案
パブリックコメント
3月31日～4月14日まで

与那国町では、「与那国町第5次総合計画」の策定作業を進めています。

「総合計画」はまちづくりの基本的な指針を示すものであり、計画策定には住民の皆様のご意見をアンケート形式で募集してまいります。

募集ができましたので、町民の皆様のご意見を広く募集するため、パブリックコメントを実施いたします。



QRコードを読み取ると、素案が閲覧できます。
Googleフォームでスマートフォンなどで、回答することができます。

お問合せ:与那国町役場 企画財政課 0980-87-3577

■策定委員会

与那国町・町民皆様と協働して第 5 次総合計画の検討をおこなうため、官民で構成された策定委員会を設置し、4 回の委員会を開催し検討しました。

1 回目	令和 4 年 5 月 18 日	【キックオフ】進め方
2 回目	令和 4 年 11 月 8 日	【中間報告】理念・ビジョン・計画の柱
3 回目	令和 5 年 2 月 21 日	【素案報告】 計画の柱・取組みの方向性・基本目標（政策・施策）
4 回目	令和 5 年 4 月 26 日	【案 承認】パブリックコメントや意見による修正



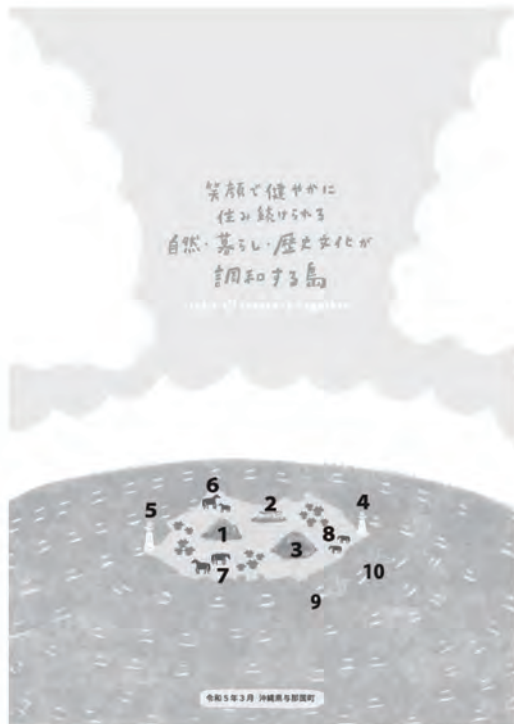
■策定委員会 委員名簿

所 属	役 職	所 属	役 職
与那国町	町長	与那国町婦人連合会	会長
与那国町	副町長	与那国町老人クラブ連合会	会長
与那国町観光協会	会長	与那国民俗芸能伝承保存会	会長
与那国町商工会	会長	社会福祉法人与那国町 社会福祉協議会	会長
与那国町漁業協同組合	組合長	与那国町教育委員会	教育長
東自治公民館	館長	JA沖縄与那国支店	支店長
西自治公民館	館長	与那国町伝統織物協同組合	組合長
嶋仲自治公民館	館長	祖内青年会	会長
比川自治公民館	館長	久部良青年会	会長
久部良自治公民	館長	学識経験者(琉球大学)	名誉教授
事務局 企画財政課 受託者 有限会社田辺コンサルタント・グループ まちひとこと総合計画 株式会社アール・ピー・アイ ウブシケ			

表紙・裏表紙に掲載されているイラストは、与那国の大切にしていきたいモノ・コト・ヒトなどを表現しています。



- 1 クバの木
- 2 メジロ (町鳥)
- 3 アヤミハビル (沖縄県指定天然記念物)
- 4 ノブオオアオコメツキ (固有種)
- 5 ヨナグニキノボリトカゲ (固有亜種)
- 6 ヨナグニイソノギク (固有種)
- 7 ドゥナンスンカニ大会 (与那国民謡)
- 8 ドッタティ
- 9 ヨナグニ馬 (与那国町指定天然記念物)
- 10 ヨナグニシュウダ (固有亜種)
- 11 テッポウユリ (町花)
- 12 与那国織 (国指定伝統的工芸品)
- 13 水稲栽培
- 14 サクナ (長命草)
- 15 農家
- 16 サルスベリ (町花木)
- 17 樽踊
- 18 ミティ唄
- 19 スポーツをする人々
- 20 花酒
- 21 最西端の碑
- 22 漁師
- 23 ハンマーヘッドシャーク
- 24 立神岩
- 25 軍艦岩



- 1 久部良岳
- 2 ティンダバナ
- 3 宇部良岳
- 4 東崎
- 5 西崎
- 6 北牧場
- 7 南牧場
- 8 東牧場
- 9 立神岩
- 10 軍艦岩

第5次与那国町総合計画
 令和5年3月 沖縄県与那国町
 企画財政課
 有限田辺コンサルタントグループ まちひとこと総合計画室
 株式会社アルビーアイ
 ウブシケ
 表紙: デコールデザイン



笑顔で健やかに
住み続けられる
自然・暮らし・歴史文化が
調和する島

Let's all create どうなん together

